

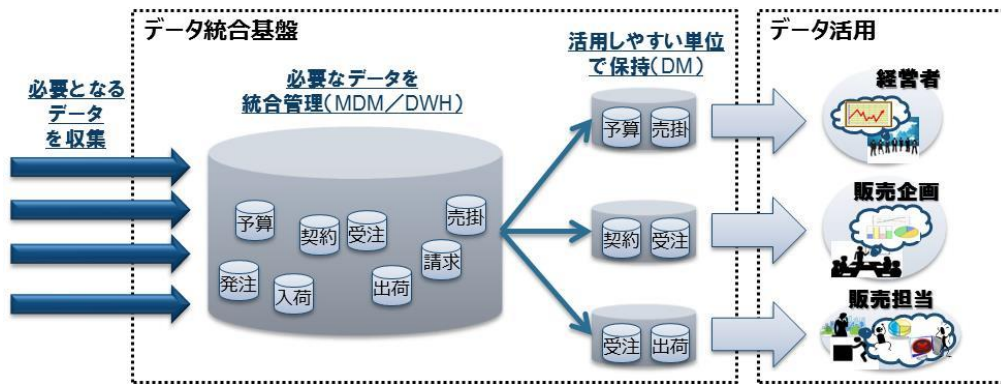
ユーザの変化する要求に耐えられるデータ設計ができていますか

ユーザのデータ活用要求はビジネスの状況により様々変化します。例えば、“顧客層が変化したと感じてきた場合は、顧客を中心としたデータを分析をする”、“製品の利益率が低くなった場合は、製品のライフサイクルに関する情報収集や製品毎のコスト分析をする”などが業務都合で随時発生します。しかし、その都度、システム対応しては、ビジネス・スピードに対してITが足かせとなり、競合他社から出遅れてしまう状況になってしまいます。

そのようにならないために、自社のデータを統合管理し、活用しやすい単位で、且つ、汎用的なデータ構造で保持することにより、上記のような悩みを解消します。

データ・アーキテクチャと汎用的なデータ構造設計が鍵である

様々なデータ活用要件に対応するためには、業務などで発生したデータを活用するために最適に管理する考え方（データ・アーキテクチャ）が重要となります。その考え方に基づいてデータ基盤設計をおこないます。



また、単純にデータをDWHなどで集中管理するだけでは、データ活用できません。様々なデータ活用要求に対応できるようなデータ構造が必要となります。



ご支援プラン

要件と現状のデータ基盤 / データ構造を確認して、最適なデータ基盤とデータ構造を設計します。

●上記以外でも様々なスタイルでご支援させていただきます。詳細は別途ご相談ください。

- 手順1** データ基盤全体像の確認する。
- 手順2** 現状データを可視化する。
- 手順3** 活用目的を定義し、データ配置を確定する。
- 手順4** 定義した活用目的を基準にデータ構造設計を行う。

株式会社 データ総研

代表取締役社長 堀越 雅朗

1985年創立。データ設計と標準化を専門分野とするITコンサルティングファーム。

データ中心アプローチ(DOA)における先駆的企業であり、PLAN-DB®、PLAN-APL®など独自開発の設計技法や開発方法論をベースにコンサルティング事業を展開。データマネジメントの世界的教育・研究機関であるDAMA国際ナショナルから、データマネジメント知識体系(DMBOK)教育機関として認定を受けている。

上場企業を中心に多数のリーディングカンパニーへの支援実績を有する。

東京都中央区日本橋小伝馬町4-11サンコービル TEL:03-5695-1651 FAX:03-5695-1656 <http://www.drinet.co.jp>